

二世豊竹古靱大夫床年譜 (四)

轉載不許

年 次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一載

十一月一日初日
(二十九日間)

日蓮聖人御法海

文樂座
大序より大切迄

役場 (初役)彌三郎住家之段中
替り役 三味線 野澤吉松
彌三郎住家之段切
(津大夫役場)

津大夫病氣再發十一月二十八日部屋にて嘔血、其儘部屋にて看護すること六日間、その後回生病院へ入院すこれ舞臺の名残なり。

十二月廿七日六世鶴澤豊吉(本名今西音治郎)東京にて歿す。法名豊警鶴林淨榮信士、行年四十七、初め豊警市と名乗リ後庄次郎と改め、更に六世豊吉を襲名せるものなり。

明治四十二年(丑歲)
一月二日初日
(四十四日間)

前 新薄雪物語

同座
大序より
兵衛屋敷之段迄

切 心中天網島

河庄之段より
道行之段迄

役場 (初役)清水寺之段
替り役 三味線 國行
三味線 豊澤猿糸
(初役)河庄之段中(破れ三味線)

三味線 野澤吉松
三味線 茶釜 鶴澤勝風
三味線 野澤吉松

替り役 五郎正宗住家之段切
此時初めて攝津大掾役場の中を語る
本興行中二月十一日父銀藏死去、法名金山院信實日銀信士、行年七十五

三月一日初日
(二十七日間)

菅原傳授手習鑑

同座
大序より大切迄

役場 (二度目)車場之段
掛合 櫻丸 鶴澤勝風
三味線 茶釜 鶴澤勝風
三味線 野澤吉松

本興行を最後として、文樂座の經營は植村氏より松竹合名會社へ譲渡さる。

四月八日初日
(三十二日間)

前 伽羅先代萩 文 樂 座
中 近頃河原達引 四條河原之段
切 廓 文章 揚屋之段

五月十六日初日
(二十九日間)

前 伊賀越道中双六 大序より座
中 艶容女舞衣 酒屋之段
切 戀女房染分手綱 双六之段
子別れ之段

六月二十日初日
(二十五日間)

前 夏祭浪花鑑 同 座
中 岸姫松響鑑 田島町之段迄
切 戀娘昔八丈 兵衛屋敷之段
才三勘當之段より
鈴ヶ森之段

八月一日初日
(五日間)

三世竹本越路大夫一座巡業
加賀金澤 福助座

八月八日初日
(二日間)

越中富山 福助座

八月十一日初日
(三日間)

越中高岡 板橋座

八月十四日

能登七尾

竹本津葉芽大夫二世豊竹古軼大夫名
跡を相續す、合三味線は久々出勤の
三世野澤勝市なり
役場 (初役) 御殿之段中(竹ノ間)
三味線 三世野澤勝市

役場 (初役) 岡崎之段次(相合傘)
三味線 初世野澤喜左衛門

本興行より三世鶴澤清六、古軼大夫
の合三味線となる
役場 (初役) 飯原兵衛屋敷之段中
三味線 三世鶴澤清六

一行、越路大夫、吉兵衛、南部大夫
寛次郎、古軼大夫、清六、源大
夫、勝太郎、むら大夫、外大勢

松竹台名會社第一回興行
津磨大夫、淀大夫と改名。
南瀬大夫、鶴尾大夫と改名。

三世野澤勝市、初世野澤喜左衛門と
改名す。
新關所之段引拔きにてマラソン競争
の新淨瑠璃挿入さる。

六月一日鶴澤才造(本名京谷豊吉)
東京にて歿す、法名敬心日豊信士、
行年四十七。初め才六と名乗り、後
八重造と改め更に才造となる。
是にて夏休。

本巡業出發の朝、北の大火起る。加
賀金澤へ到着後も鎮火せず。寛治郎
叶大夫、淀大夫の家類焼。

八月十五日

八月十七日初日

(七日間)

八月廿四日初日

(三日間)

九月一日初日

(七日間)

九月十日初日

(四十五日間)

北陸大庄寺

名古屋 御園座

伊勢津 泉座

京都 南座

文 樂 座

前 本朝廿四季

大序より

中 攝州合邦辻

合邦住家之段

切 壺坂靈驗記

土佐町松原之段

澤市内之段

十一月一日初日

(三十七日間)

前 假名手本忠臣蔵

大序より

切 御所櫻堀川夜討

九段目迄

辨慶上使之段

竹本越路大夫一座

堺市 卯之日座

和歌山市 辨天座

文 樂 座

明治四十三年(雪蔵)

一月二日初日

(四十三日間)

前 繪本太功記

大序より

中 鶴山古跡松

豊成館之段

切 八百屋献立

鶴山之段

新穀之段

役場

(初役)桔梗ヶ原之段奥

(三味線)殿中之段

(初役)長尾景勝

掛合 野澤喜左衛門

三味線 野澤喜左衛門

此時竹本越路大夫初役の合邦大好評

役場

(初役)早野勘平住家之段中

(三味線)祇園一力之段

(初役)祇園一力之段

掛合 伴内

三味線 豊澤猿糸

古靱大夫、清六入座出勤

役場

(初役)尼ヶ崎之段中(夕顔棚)

(三味線)三世鶴澤清六

九月二十二日五世竹本住大夫(本名吉野卯之助)歿す、法名釋誓現、行年六十三。初め雄大夫、後に越大夫と改め、更に五世住大夫名跡を襲名す。

竹本文大夫、竹本濱大夫と改名す。四世桐竹門造歿す、法名妙法深源院義門居士。是にて冬休

竹本濱大夫、三世竹本津大夫名跡を襲名、初めて附物を勤む

二月十六日初日
(五日間)

竹本越路大夫一座
京都 明治座

二月二十三日
(三十日間)

前 義經千本櫻 文樂座
中 玉藻前旭秋 右大臣道春館之段
切 卅三間堂棟由來 段 平太郎住家之

四月二日初日
(三十四日間)

前 釋迦如來誕生會 同座
中 傾城阿波の鳴戸 之段 十郎兵衛住家

五月十四日初日
(二十九日間)

前 八陣守護城 同座
中 艶容女舞衣 長町みのや之段
切 増補忠臣蔵 本藏下屋敷之段

六月十七日初日
(二十六日間)

前 箱根靈驗壁仇討 同座
中 櫻鈴娘鮫鞘 大序より
切 生寫朝顔話 宿屋之段

古靱大夫、清六入座出勤

役場 (初役)渡海屋銀平住家之段次
(幽霊) 三世鶴澤清六
(初役)右大臣道春館之段中
三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役)釋迦如來出世之段
(初役)琴實の段 三味線 豊澤猿糸

古靱大夫本興行前より寶塚温泉に行
き病を得て稽古より休演、竹本源大
夫その代り役を勤めしが古靱大夫廿
四日より出演す

役場 (初役)淀城之段奥
三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役)九十九新左衛門屋敷之
段 三味線 三世鶴澤清六
二度目 鯉谷之段中
三味線 三世鶴澤清六

初世野澤喜左衛門本興行にて引退、
役場は千本櫻道行。
吉田玉治、四世吉田文三名跡を相續
す

本年は三世野澤吉兵衛五十年忌に相
當、その追福の爲め一釋迦如來誕生
會(三)を選ぶ、本外題は近松門左衛門
四月十三歳の時の作にして元祿八年四
月八日竹本座に上演、爾來二百十六
年間その上演を見たることなし。大
序より經山寺迄は五天笠の分を差
加へたるものなり。

竹澤團二郎、竹澤團六と改名す。

四月六日、二世鶴澤重造(本名舞羽
佐七)歿す、法名還譽法道彈定門、
行年七十五。

是にて夏休み

八月十五日午前四時三十分、桐竹紋
十郎(本名小林福太郎)歿す、法名桐
竹院明星日福信士、行年七十。